

鳥取神青通信

第13号

発行元
鳥取県神道青年会
編集
東部・若革会

神道青年全国協議会 中央研修会を終えて

鳥取県神道青年会会長
中央研修会実行委員長

須山倫史



日頃は神道青年会の諸活動に際し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

去る三月二十三・二十四日、米子市皆生に於いて開催されました平成十七年度神道青年全国協議会中央研修会は、滞り無く盛会に終えました事を先ず以ってご報告申し上げます。際しまして多大なるご支援とご助成金を賜り、会員一同心より深く御礼を申し上げる次第で御座います。

研修会主題には、「和魂」を受け継ぎ伝ふべき日本人

の心と掲げ、全国から三百四十七名の会員が集い、初日第一講義は軍事学者潮匡人先生、第二講義は漫才師の宮川大助先生、翌日第三講義は鳥取木鶏研究会代表徳永罔典先生の講義を拝聴し、熱心に自己研鑽を積み、大変稔り有る研修会を開催できました。

当初、第一講義の講師に予定しておりました石破茂先生には、御公務多忙の為お招き叶わず残念ではありましたが、ご配慮賜り潮匡人先生を紹介頂き誠に有難く感謝致しました。

又、主題、主旨等研修の主軸となる論議、添削等に始まり、当日研修会運営の総てに至る迄、会員一丸となつて取り組み、皆の叡智を結集して当会が一つに纏まつた事は、何事にも替え難い善事と自負する所で御座います。この場を借り、会員皆様に感謝申し上げます。

今回、当県神道青年会に於いては初の全国事業であった為、紆余曲折と苦難多々ありましたが、大変貴重な経験をさせて頂きました。今後はこの経験を活かし、欺界の発展繁栄に微力ながら尽くす所存で御座います。終わりに、ご支援ご指導賜り激励頂きました先輩諸賢皆様方には、衷心より感謝申し上げます、御礼の挨拶とさせて頂きます。



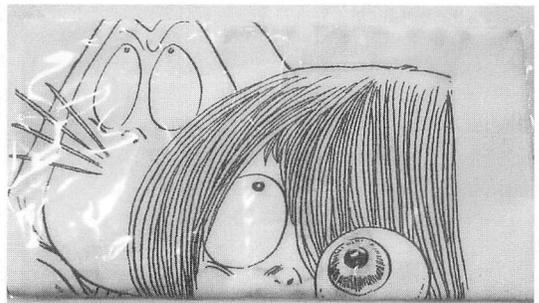
▼開講式テーマは「和魂」



▲予想を上回る300人以上の参加者



▶記念品として配られた鬼太郎手拭い



和魂 受け継ぎ伝ふべき日本人の心

鳥取県神道青年会・事務局
中央研修会・事務局 小坂雅彦

日本人が日本人らしい考
え方をしなくなってきた昨
今、我々神職としてのあり
方、有り様を問われるよう
な状況となってきた。

都会に於いては著しく、地
方に於いても加速を増して
いる。昨今の神宮大麻減体
がその証左と言えよう。で
は日本は、神職は、神社会
は間違った方向へ向かって
いるのか。そうではないと
信じていた。では我々若手神
職は何を以て旗印とし、自
らを律し邁進していくべき
なのか。悩んだ時こそその「
温故知新」先人の残した大
いなる知恵、習得を今こそ
喚起し、世に知らしめて行
くべき時にきていると私は、

思える。この度の主題は、
そうした思いから始まった
潮匡人、宮川大助、徳永圀
典の各氏に決まりそれぞれ
の立場からそれぞれの意見
体験を交えた講演を拝聴す
ることとなった。特に徳永

先生の講演はこの趣旨主題
に合致したものであり、皆
の共感を得られたと思う。
日本人が日本人らしい時代
を生きてきた証人として、
これから明日の日本を背負
っていく私たちに、飾らな
い言葉で応援し、命を、思
いを繋いでほしいとの想い
で一杯だった。宮川先生の
体験から来る思いも、当初
の予定を遙に超える時間語
り、熱い思いだけは皆に伝

わったはず。潮先生も国防
という専門家の立場からの
意見、警鐘を鳴らし、我々
に愛国心の何たるかを語ら
れた。いずれもすばらしい
和魂であると思う。

平成十六年夏の実行委員
会結成から数えること二十
一回の会議、三回の説明会、
二回の下見会を経た。列な
る者二十二名。雨を凌ぎ、
雪に耐え、時に日付の変わ
る時間にも負けず、政治家
の都合に振り回され乍らも
何とか形になったのは、奇
跡ではなく、このすばらし
き人々の盡力あってこそで
ある。

今回の研修会の事務局担
当として、受講生として、限
りない教訓を胸に、「和魂」
を旨に神明奉仕に励みたい。

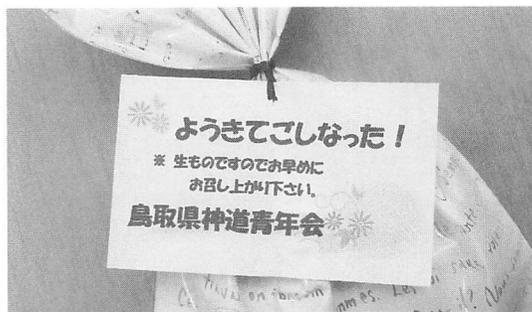


◀ 宮川先生も帰鳥



▲前日入念な打ち合わせ

▼全国津々浦々から 本当に有難う!



▶ 余興で行われた「がいな太鼓」



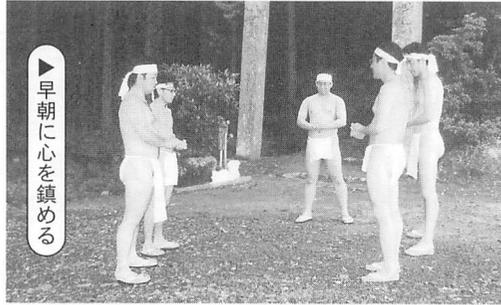
各単位会の活動

東部 若葦会

若葦会では毎年、夏に一泊研修を行っています。今年七月二十九日(土)〜三十日(日)の二日間に分けて行いました。初日は霧林先生の講師の元、因幡相伝楽の太鼓の練習を行いました。皆、真剣に因幡の伝統ある楽を習得しようと練習に励みました。続いて会場を提供して下さった鹿野町の加知弥神社禰宜さんに神社の由緒について説明を頂きました。

二日目は午前六時に起床し、禊を行いました。身を切る様な冷たい川に身を沈め、心身共に清められました。その後は田中先生を講師に招き、祭式練習に入りました。参加人数が少なかつた為、衣紋の着付け練習を行いました。毎年の護国神社着付け奉仕に役立つ様、皆が真剣に取り組みました。来年はもう少し参加者が集

まる様、呼び掛けを充分に行つていきたいと思ひます。
(田中正臣)



▶早朝に心を鎮める

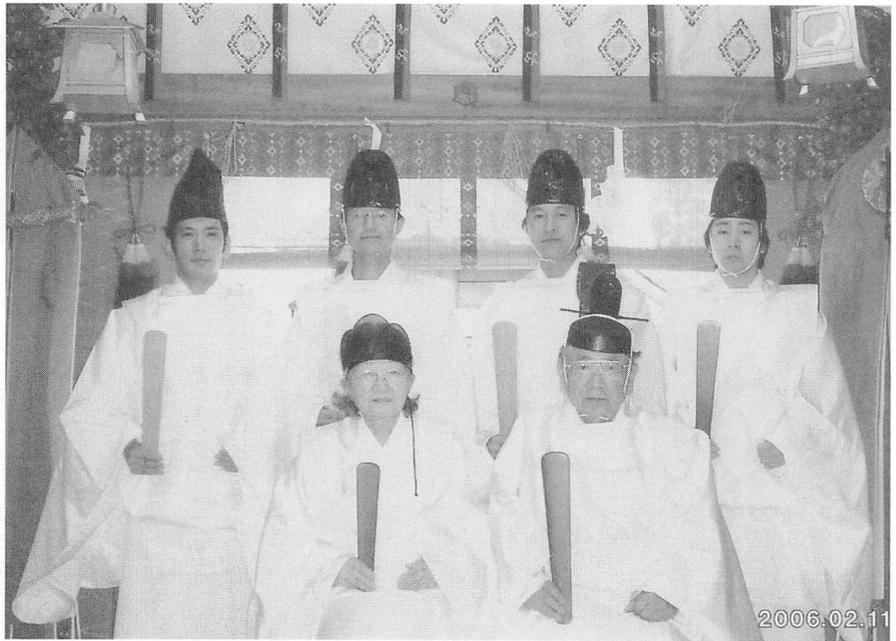


▶加地弥神社の由緒を聴く

中部青年神職会

中部青年神職会は平成十八年度の事業として二月十一日に建国祭を斎行いたしました。この建国祭は中部青神で長い間受け継がれてきた事業の一つで、毎年中部の宮司さんを斎主にお迎えし、その宮司さんの神社で行わせて頂いております。今年度は琴浦町上伊勢の『方見神社』宮司・池本洋一氏を斎主にお迎えし、禰宜の池本千鶴子さんにも楽人としてご奉仕して頂きました。会員の奉仕者は五人と相変わらず少数でしたが、それぞれが祭典の全体を見た上で、自分がどのように動くのか試行錯誤して行った祭典は神職として良い経験になりました。

中部は東部や西部の青年神職会に比べて会員数が少ないのが悩みの種です。しかし、一人ひとりの意見を尊重できるのも、中部全体で濃い人間関係が作れるのも少数ならではの強み



2006.02.11

西部青年神職会

西部青年神職会は、中央研修会に専念する為今年度は事業を行っておりません。

ではないかと思ひます。これからも中部で一致団結して色々なことに挑戦していきたいです。レッツゴー中部!
(渡邊 香里)

イベント企画 鳥取県神道青年会

伊勢神宮参拝と お木曳きご奉仕の旅



- ご旅行期間 平成19年 **5月26日(土)~5月27日(日)**
- ご旅行代金 **お一人様 35,000円**
【食事:朝1回・昼2回・夕2回(弁当含む)】
- 募集人員 **80名様**(最少催行人員 35名)
- お申込みについて **申込締切日** 平成18年 **なるべく早く**

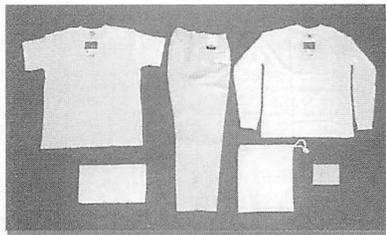
奉曳き参加者の特典

お木曳きセット(ハッピー、帯、鉢巻)、参加章、記念品、記念DVD
 神明奉仕セット(白ズボン、白シャツ<半袖・長袖>、白タオル、白小物入れ、白巾着袋)
 (白ズボンは希望のサイズを申込み用紙に記入:(男・女)、S・M・L・LL・EL)

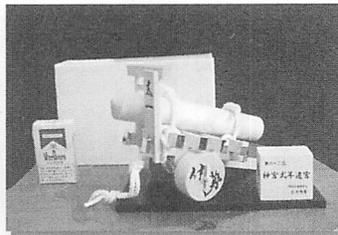
- 添乗員 添乗員が同行します。
- 申込方法 「申込書」を記入の上、旅行代金を添えて各单位会(西部・中部・東部)事務局経由にて鳥取県神道会事務局を通じて近畿日本ツーリスト(株)までお申し込みください。

伊勢の神宮では、二十一年に一度、御正殿以下の御社殿や御装束・神宝をはじめ一切を一新して、清々しい新宮へ大御神さまにお遷り

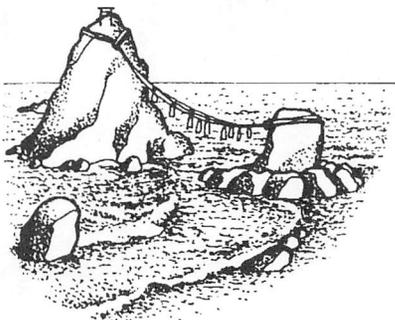
お木曳きについて



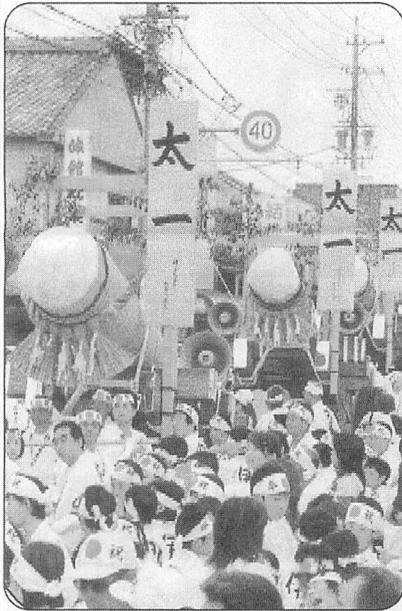
(神明奉仕セット)



(記念品・お木曳き車)
(木遣り歌のオルゴール付)



ただくおまつりが執り行われていきます。
 今から千三百年前に天武天皇がお定めになり、持統天皇の御代に第一回が行われ、以来、絶えることなく連綿と親から子へ子から孫へと受け継がれてきました。
 お木曳きは、旧神領にあたる伊勢市・二見町・御園村の住民が二ヶ月間にわたる式年遷宮で使われる御用材を両宮に曳き入れる盛大な行事です。(次頁へ)



旧神領地の町内総出の晴れ舞台で、数日前に揃いの法被(はつぴ)姿で二見浦に『浜参宮』をして心身を清めて行事に臨みます。巨大な木曳車で約八百メートルの陸曳きを行います。全国より一人でも多くの皆様にご参加いただき、民族の一大祭典である神宮式年遷宮に、心からなる奉賛の誠を捧げていただきますよう、ご案内申し上げます。



■ 宿泊

— ホテル 鳥羽小涌園 —



— 展望大浴場 —



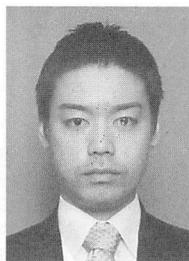
目次	月日(曜)	行 程
1 日目	5/26 (土)	各地=米子IC=蒜山SA=<高速>=加西SA= 7:30 弁当 <高速>=浜参宮(二見興玉神社)= 伊勢志摩真珠館=鳥羽市内 17:30着
2 日目	5/27 (日)	鳥羽=伊勢市・お木曳行事・外宮(御垣内参拜) 8:00発 約800mを約50分で奉曳します。 ・おもてなし会場=内宮(御垣内参拜)昼食= <高速>=加西SA=米子IC=各地 22:00着 14:00

新入会員紹介

氏名 金田 祐季
住所 鳥取市国府町
宮下六五一

生年月日 昭和五十四年
十二月五日

奉務神社 宇倍神社
所属 若葦会
◎今後の抱負



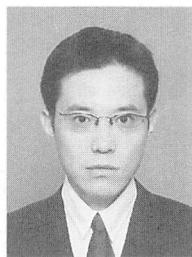
いわゆる「自虐的」な教育を受けた為でしょうか。鳥取県といえば、人口は最小、交通網の整備は遅れ、著名人が浮かばない、全国一の田舎町で、私は鳥取県出身であることが恥ずかしいことのように思いながら育ちました。
ところが、この四月から地元での奉仕も早半年余りを経て、その思いががらりと変わりました。鳥取県は、自然に恵まれ、人柄は温厚

地域の結びつきがしっかりと残っております。そんな誇れる美しい故郷、鳥取を守り伝えていきたいと思えます。どうぞご指導の程宜しくお願い申し上げます。

氏名 伊藤 大輔
住所 鳥取市国府町三
代寺七四六一

生年月日 昭和五十四年
八月一日

奉務神社 宇倍神社
所属 若葦会
◎今後の抱負



まだまだ神職として、また鳥取県民としても日が浅い私ではありますが、真摯に勤めていく所存でありますので、諸先輩方、何卒御指導御鞭撻を賜ります様御願い申し上げます。

氏名 福田 靖
 住所 東伯郡琴浦町 美好一七〇
 奉務神社 照国神社
 所属 中部青年神職会
 ◎今後の抱負



この度、青年神職会へ入会しました、「英語を話すことができる神職」を目指している福田靖と申します。私の周りには、力強い、そして魅力的な胴・太鼓を叩かれる方が大勢いらしゃいます。そのような方々からひとつでも多く学び、素晴らしい胴・太鼓を叩きたいと考えております。氏子、総代の皆様の期待に応えられるよう、専心努力していく所存です。よろしくお願ひいたします。

氏名 船越 浩紀
 住所 日野郡江府町 武庫九五六一二
 奉務神社 神奈川神社
 所属 西部青年神職会
 ◎今後の抱負



この度、神道青年会に入会させて頂きます、船越浩紀と申します。國學院大學を卒業後、実家の神奈川神社に奉職し、祖父・父と共に、神職として勤めております。社頭奉仕を通して学習できることもあり、まだまだ至らない部分が多いのも現状です。今後は、総代さん、氏子さん、地域の方々とのつながりを大切に、多くの知識と幅広い教養を身につけて世のため人のために貢献でき

きる神職になりたいと思ひます。これからも、ご指導のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

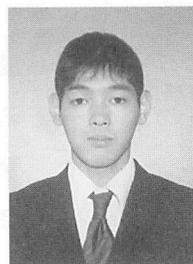
氏名 木村 裕行
 奉務神社 旗崎神社
 所属 西部青年神職会
 ◎今後の抱負



平成十七年に三重県内の一般企業を退職し、米子へ戻りましてから神職養成講習会に於いて直階の資格を授かり、同年十一月十五日に旗崎神社禰宜に任命されました。その翌年、宮司であつた祖父が亡くなり、今年九月五日より同神社の宮司代務者として奉職しております。神職としても人間として

も未熟者の為、諸先輩方、氏子の皆様方のお力をお借りすることが多いかと思ひますが、一生懸命にご奉仕して皆様に信頼して頂ける神職を目指して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

氏名 後藤 久直
 住所 鳥取県西伯郡 大山町潮音寺一四三
 奉務神社 春日神社
 所属 西部青年神職会
 ◎今後の抱負



この度、鳥取県神道青年会に入会させて頂きました、後藤久直と申します。私は、平成十六年に大社国学館において直階を修了し、平成十七年山口県神社庁において権正階を修得し、

平成十八年春日神社の権禰宜として奉仕しています。鳥取県神道青年会で、諸先輩方に様々な知識を学ばせて頂き、諸先輩方に少しでも近づけるよう努力して参りたいと思ひます。また、何もわからぬ未熟者でございますので、今後とも何卒ご指導のほど宜しくお願い致します。

編集後記

現在、大変な社会問題となっている飲酒運転による事故。市の職員や公務員等が悪質な事故を起こし、全く関係ない人が死亡する。ある関西の有名神社では来年の正月にお神酒は一切出さないと二ニュースが流れた。とんでもない時代になってしまった。しかし、そこまで徹底して良いのか悪いのか？事故のない明るい社会を築くには、やはりそこまでしなくてはいけない時代かも知れない。でも乗らなければいけないのだ。それだけだ。やはり酒は楽しく飲む。